

新年のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。
本年もよろしくお願ひいたします。



熊本県酪農業協同組合連合会
代表理事長
隈 部 洋

謹んで、新春のお慶びを申し上げます。

会員・酪農家・関係機関の皆さんには、旧年中のご支援、ご協力に対しまして厚くお礼申し上げます。

さて、昨年は7月の県南集中豪雨により甚大な被害が発生しました。被災者の皆様には心よりお見舞いを申し上げます。記録的な猛暑や度重なる大型台風の接近など自然災害への備えはますます重要となって参ります。また、新型コロナウイルス感染症の猛威は世界中に拡大し、経済の停滞とともに医療崩壊の危機のなか、その終息は未だに見えない状況が続いています。

酪農・乳業を取り巻く環境も経験したことのない状況を迎えてます。生乳の需給は、学校給食の停止のほか、外食産業の休業や時短営業により生乳需要が激減し、行き場を失くした生乳の処理に危機感を覚えました。幸いにも巣ごもり需要により量販店や生協の需要増加と国による加工向けに対する支援措置により、酪農・乳業界では何とか事なきを得たものです。しかしその後の脱脂粉乳の在庫過多は過去最高を記録しておりバター在庫の増加とともに、今後の需給緩和の状態が危惧されます。

このようななか、本県酪農は典型的な家族経営を中心とした中小規模の酪農形態を特徴としますが、増頭奨励金や搾乳素牛の供給事業を活用いただき、一戸当たりの多頭化が進んでおり、生乳生産量は11月末現在で前年比102.5%の推移となり、九州における生産量は4割を超えるまでになりました。本県はまさに九州を牽引する酪農県となっています。生産者の日頃からの努力の成果であり、皆様の意欲的な生産に感謝申し上げます。しかし我が国の生乳生産は北海道の寡占化が顕著となっており生乳生産の構成比は55%を超えるなか、全国的な需給調整が不安定となり都府県の酪農が厳しさを増す可能性もうかがえます。国も生産基盤

拡大加速化事業など都府県向けの対策を強化しています。さらに改正畜安法下の「いいとこどり」に対する公平性の確保と指定団体機能の発揮による生乳需給調整機能は酪農業の根幹をなすものです。法整備の必要性を訴え将来夢のある酪農となるよう努めてまいります。

また、昨年は酪農組織再編について県一酪農協の設立に向け基本方針の確認がなされました。本会では方針に基づき組織整備研究会を組織するとともに、協議は本県酪農組織の受け皿となるべく専門農協への酪農家の統合に向け進展しています。組織問題は本年4月には確実なステップアップの基、次の段階へ向かいます。本会もしっかりと支援してまいりますので生産者の皆様におかれましても積極的な参加をお願い致します。

ところで、昨年は酪農界での大きなイベントである「第15回全日本ホルスタイン共進会九州・沖縄ブロック大会」が新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止となりました。非常に残念なことであり、準備に携わって頂いた方々には心からお礼を申し上げます。

その他、昨年の特記としましては、コロナ禍のなか様々な働き方の多様化が顕著となりました。本会では「ITプロジェクト」を立ち上げリモートワークやWeb会議をはじめ様々な電子ツール活用へ向けて取り組みを始めております。乳業部門では、昨年9月に阿蘇ミルク牧場にビンの充填機械を導入し、宅配牛乳の需要拡大に努めています。同じ9月からは大手コーヒーチェーンとの取引も開始するなど取扱量は拡大しております。今後も安全安心の製品づくりに努めて参ります。

酪農を取り巻く状況は、酪農家の高齢化がすすみ後継者不足による酪農家の減少など様々な問題が山積しております。本年も会員・酪農家、関係各位のご協力をいただきながら、役職員一丸となりまして、生産者の皆様の負託に応えられる事業展開を図ってまいります。今後とも、ご支援ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様のご健勝と益々のご発展を心から祈念し、1日も早いコロナの終息を願いながら年頭の挨拶といたします。



熊本県知事

蒲 島 郁 夫

新年あけましておめでとうございます。

熊本県酪農業協同組合連合会におかれましては、日頃から県政の推進に御理解と御協力をいただきますとともに、酪農・乳業の振興を通じて地域の活性化及び産業の発展に御尽力いただき、心から感謝申し上げます。

昨年は、熊本地震からの復興の途上で、新型コロナウイルスの感染症の拡大や7月豪雨により県南地域を中心に甚大な被害が発生するなど、本県には厳しい一年でした。

酪農家や乳業者の皆様は、特に飲用牛乳について、学校給食の中止や外出自粛による外食産業で需要が減少する一方、家庭内需要の増加や夏期の学校給食実施など、例年ない激しい需要変動への対応にも苦慮されたことと存じます。

こうした中、生乳の廃棄や学校給食用牛乳の供給停止が起らなかったのは、乳業工場間の連携による加

工仕向けの取組強化や医療福祉関係者への牛乳の無償提供等、皆様が危機感を共有し、取り組んでいただいたおかげです。

また、7月豪雨の際には酪農家の皆様から温かい義援金をいただきました。この場をお借りして改めて感謝申し上げます。

さて、全国3位の生乳生産量を誇る本県では、関係者の御努力により生産基盤の強化が着実に進展しています。

TPP11、日欧EPA協定や日米貿易協定など、より一層国際化が進展する中で、県では「世界と戦える農業」「稼げる農業」の実現に向け様々な取り組みを開展することとしています。

具体的には、性別精液の活用や優良雌牛導入、コンタクター等の飼料生産組織の育成、さらには、「ひと・うし・しごとづくりステップアップ事業」を活用した新たな担い手の育成など、更なる生産基盤の強化に向けた様々な取組を支援して参ります。

コロナ禍にあって外出する機会が減り、在宅時間が長くなっています。

是非この機会に、日々の飼養管理や将来の経営ビジョンなどについて互いに話し合う時間を設けていただければと思います。

令和3年が、皆様方にとりまして実り多い一年となりますことを心から祈念申し上げ、新年の御挨拶いたします。

こうした中、私ども全酪連では、本年4月から今後3ヶ年の事業方針となる第十二次中期事業計画が始まります。

また平成23年に、我が国酪農生産基盤の維持・拡大を目指し「全酪連将来ビジョン」として、10年間の基本方針をとりまとめましたが、昨今の酪農を取り巻く情勢が当初の予想を超えて変化していることから、この第十二次中期事業計画の開始に合わせ、これまでの取組みを総括、検証した上で、一年前倒して将来ビジョンを見直すことといたしました。

今後、日本の酪農が直面する課題に対応しつつ、本会にできる行動を着実に積み重ねていくことを主眼に、①酪農経営環境の安定化、②酪農経営の持続力向上、③酪農生産物の販売強化、④組織運営の効率化と財務体質の充実、⑤ガバナンスの強化を基本施策として、新たな将来ビジョンと併せて提示させていただく予定です。

このような将来ビジョン、中期計画を確立し、これを着実に遂行することにより、今後も引き続き、全国の酪農生産者・会員の皆様のご協力と行政・関係団体のご指導ご支援を賜りながら、酪農専門農協の全国連として日本の酪農の振興と発展に寄与していく所存であります。

最後になりますが、熊本県酪農業協同組合連合会の会員、酪農家の皆様、そして役職員の皆様のご健勝とご発展をご祈念申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年明けましておめでとうございます。

熊本県酪農業協同組合連合会の会員、酪農家の皆様、そして役職員の皆様におかれましては、良き新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

日頃より、弊会事業に特段のご支援ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

令和3年の年頭に当たりまして、一言ご挨拶申し上げます。

さて、昨年一年はコロナ禍への対応に追われた1年となりました。

国内の酪農に関しましても、小中学校の休校による学乳向け生乳のキャンセルや、緊急事態宣言による休業要請で飲食店等向けの業務用乳製品の需要が減少し、生乳需給が大幅に緩和するなど、大きな困難に見舞われました。

ただでさえ酪農家戸数の減少や毎年のように襲ってくる自然災害など、予断を許さない酪農情勢が続いています。



九州生乳販売
農業協同組合連合会
代表理事長
隈 部 洋

新年あけましておめでとうございます。

熊本県の酪農家の皆様並びに熊本県酪連役職員の皆様におかれましては、12年に一度の丑年、令和3年の新年をお健やかにお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は7月豪雨、また9月には台風9、10号の襲来と酪農経営に大きな影響を与える自然災害にも見舞われました。被害にあわれた方々に心よりお見舞い申し上げます。

また厄災としては、誰もがこのようになると想像もできなかった、新型コロナウイルス感染症の世界的な大流行があり、いまだに感染の収束が全く見通せません。このコロナ禍により日本をはじめ世界各国の生活様式が大きく変化しました。人や物の流れが激変し、生活様式も感染拡大を防ぐため人との接触を避けるなど大きく変わってしまいました。3月には学校の一斉休校による学校給食の休止、その後4月には緊急事態宣言が発令され、人との接触を7割削減するために在宅勤務や時差出勤、県外への移動自粛、飲食店等が営業自粛となり牛乳乳製品の消費も大きく変動し、生乳の需給も大きな影響を受けました。このよう

な急激な需給変動の中、国による生産者需給緩和緊急対策事業で乳価下落分の差額補てんが実施されました。また、生乳廃棄を出さないように酪農乳業界が連携をとり一体となって加工処理をすることで廃棄を出さなかったことがまさに指定団体の需給調整機能が生かされた結果だと思います。

生乳の受託販売においては「畜産経営の安定に関する法律」による制度改正にともない、生乳の販売先について系統外への販売事例が見られます。一元集荷多元販売の機能が弱まり、生乳需給が崩れ、全体的な乳価の下落に繋がらないように、九州においては組織が一丸となって統一的な取り組みを行なうことで機能を維持していきたいと考えます。

九州の生乳生産量においては、前年を上回って推移しております。生産基盤強化対策や増産対策の効果が表れています。他の地域においても北海道が102%台、都府県においても100%台と生乳生産が回復してきています。九州の生乳生産量60万トンを維持し、更に需要期に生乳を供給することで飲用率の向上、一方では販売経費の低減により、手取乳価の向上に努め、皆様の負託に応えられるように引き続き努力する所存であります。

我々酪農家は消費者に牛乳を買っていただき飲んでもらうことで酪農経営が成立します。消費者に飲んでいただくためには我々酪農家も努力をしなければなりません。また本会が指定団体の需給調整機能を維持するためには、酪農家の皆様の協同精神や組織の結束が重要だと考えておりますので、一層の御協力を賜りますようお願い申し上げます。

年頭にあたり皆様方の御健勝と御多幸を祈念申し上げ、新年の御挨拶といたします。

一方、酪農関連では、北海道を中心とした生乳生産の増産基調が続きましたが、臨時休校等による学給休止や外食向けの激減、家庭消費の増大により生乳需給は激しく変動しました。

そのような中、当協議会では6月の通常総会において役員改選を行い、新役員体制が始動しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響によって、今年度の活動は中止せざるを得ませんでした。また、来年度以降は、十分なコロナ対策を講じた中での活動が求められます。

家庭向けの牛乳は、巣籠り需要により減少することはなかったと聞いております。このような状況下でも一般消費者が安心して牛乳を手に取り、飲み続けて頂けたのは、これまで一般消費者に対し、理解情勢活動や消費拡大運動を行ってきたことで、牛乳は安全な飲み物だと周知された成果だと思います。酪農の価値向上を図るために、これからも継続した活動が必要だと実感しました。

そのためにも、県青壮年部協議会では、酪農を取り巻く環境の変化に会員の皆様が対応できるよう情報発信していきますので、今後より一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、本年も皆様方にとって良い年となりますことを祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。



熊本県酪農青壮年部協議会
委員長
松 田 仁

新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、良き新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また平素より、当協議会の事業運営につきまして、多大なご理解ご協力を頂いております事を心より厚く御礼申し上げます。

昨年7月の県南部豪雨により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げ、皆様の一日も早い復興を願っております。

さて、国内情勢としては、新型コロナウイルス感染症拡大による社会・経済の混乱が続き、人々の生活や働き方などに大きな変化をもたらしました。特に観光業や飲食業には大きなダメージとなり、政府からも大規模な支援策が開始されたものの、世界的な再拡大により事態収集の見通しがつかず、予断を許さない状況が続いている。



熊本県酪農政治連盟
委員長
隈 部 洋

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

日頃より当連盟の活動に対し、会員の皆様にはご理解ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、昨年は新型コロナウイルス感染症が世界規模で拡大し、今なお深刻な経済打撃を与え続けています。酪農・乳業界でも業務用牛乳の減少や学乳の停止など大きな影響を受けましたが、加工向けへ回った乳価に対する差額補填事業が早期に講じられるなど、国の迅速な対応があり生産者への影響は最小限に留めることができました。政治面では、歴代最長となった安倍政権の退陣とその後の菅政権の発足、さらにアメリカ大統領選における混乱や日米交渉の行方等、国内外で大きな変革を迎えるました。

本県においては7月豪雨により未曾有の被害が発生しました。幸いにも酪農関係者での人的被害が無かつたことに安堵いたしましたが、本連盟では皆様からの会費を原資として熊本県を通して被災地へ義援金を贈呈しております。皆様のご協力に改めて御礼を申し上げるとともに、被災された方々には心からお見舞い申

し上げます。

このような中、当連盟の活動におきましても3月と11月に予定しておりました農水省および県選出国会議員への要請活動を中止とするなど、政治活動はコロナ感染症により大きな制約を受けましたが、農水省に対しては令和3年度酪農政策・予算確保に関する要請書を提出し、中でも新型コロナウイルス感染症対策、ヘルパー制度や施設整備への支援、指定団体機能の維持と消費者への理解醸成等について強く要請を行っております。

また、昨年3月実施の熊本県知事選挙におきましては、本連盟推薦の蒲島郁夫知事が4期目の当選を果たすことができました。皆様のご支援に改めて御礼を申し上げます。さらに、令和4年実施の参議院議員選挙に対しましては藤木眞也参議院議員を公認候補者と決定し、らくのうマザーズ本会にて政策協定書の調印、公認証の授与を行っております。藤木議員よりは、「中小規模・家族経営や中山間地域経営の維持等の大きな課題に対し、目標達成すべく仕事をやり遂げる」と本県酪農の振興に力強い表明を頂きました。本年には第49回衆議院議員選挙が予定されております。本連盟の支援候補者の当選を果たすべく皆様のご支援・ご協力を宜しくお願ひいたします。

先行き不透明なコロナ禍ですが、酪農経営の安定の為、予算獲得ならびに政策の実現に向け、関係機関・団体とも協調し、一致団結し組織運動に尽力して参ります。今後とも会員ならびに関係者各位のご協力、ご支援をよろしくお願ひいたします。

最後に、皆様のご健勝とご発展を祈念致しまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

ことが求められると実感しました。

そのような中、当協議会でも酪農家戸数の減少や組合の統廃合に伴い、役員定数を14名から12名に変更しました。また、本協議会の活動としては、感染拡大防止の観点から今年度の活動はすべて中止しました。酪農経営に関する意識の高揚を目的とした夏季酪農大学や酪農発表大会、酪友同士の親睦を目的としたミニバーレーボール大会、一般消費者への理解醸成や消費拡大を目的とした酪農女性の集いや牛乳・乳製品を使った料理コンクールなど、これまで継続して活動してきたことを中止せざるを得ないことは心苦しい思いでしたが、来年度以降の活動ではコロナ対策を十分に図り、今まで以上の活動を実施していく所存ですのでご理解の程よろしくお願ひ致します。

女性酪農業の目線から一般消費者の立場になり、情報交換を行い、「安全・安心」な牛乳の供給はもちろん、今後も部会員が一致団結し酪農を盛り上げるために、私たち女性部役員は本年も充実した活動を精力的に努めてまいります。今後とも女性部活動へのご理解ご協力をお願ひ申し上げます。

最後になりますが、この新しい年が佳き年になるよう心より祈念致しまして新年のご挨拶とさせて頂きます。



熊本県酪農女性部協議会
会長
稻 田 仁 美

新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、新たな気持ちで新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、会員の皆様、各関係機関の皆様には日頃より女性部活動に対しまして、多大なるご理解ご協力を頂きまして心より感謝申し上げます。

昨年7月の県南部豪雨により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げ、皆様の一日も早い復興を願っております。

さて、昨年を振り返ってみると、日本では菅政権が誕生し、米国大統領選挙ではバイデン氏が勝利しました。世界中では新型コロナウイルス感染症が猛威を振るったことで今までの生活様式が一変するなど、「変化の年」であったように感じます。酪農業界においてもそうですが、様々な変化へ柔軟に対応していく



熊本県乳牛改良同志会
会長
米野 浩二

新年あけましておめでとうございます。
皆様におかれましては良き新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、平素より同志会活動に対しましてご支援・ご協力をいただき心より感謝申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症が世界中に大きく影響を与えた1年でした。海外では、大都市のロックダウンが実施され、ヒトとモノの移動が減少したことで経済活動も停滞し、世界経済に大きな打撃を与えました。国内においても4月に緊急事態宣言が発出されて以降、各種催事が延期・中止となり、東京オリンピックまで延期される事態となりました。

一方、熊本県内ではコロナ禍に加え、令和2年7月豪雨により主に県南地域が被災し、酪農家にも被害が出ました。被災された皆様にお見舞いを申し上げると

ともに、1日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

酪農業界においては、学校給食の停止や外食需要の減少などにより、一時飲用乳の消費が落ち込む事態となりました。さらには、九州での開催と意気込んでいた、全日本ホルスタイン共進会も中止を余儀なくされ、本同志会として非常に残念に感じていますし、特に準備にあたられていた関係者の皆さまにおかれましては、断腸の思いであつたろうと存じます。

本同志会の活動としましてもオール九州B&Wショウをはじめ、ベビーショウやスポーツ大会などの各種催事を中止したほか、通常総会も書面決議で開催するなど、あらゆる活動を自粛した1年でした。

海外では新型コロナウイルスに対するワクチン接種が始まり、国内でも早ければ夏までに始まるとの報道も出ていますが、かつての日常が戻るのはまだ先の話になりそうです。しかし、催事や会食の自粛が続いたことで、日々の作業に集中できたとの声も聞かれました。このような状況だからこそ、本同志会としては自身の飼養管理や改良方向を見つめなおし、ゲノミック評価や牛群検定を活用しながら、生産基盤強化への先導的役割を担っていきたいと思っています。

最後になりましたが、本年も昨年同様、関係各機関の皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げ、新年の挨拶と致します。

は不透明な状況があります。国内では、北海道の生乳生産が過去最高を記録し、都府県でも4年ぶりの増産に転じました。しかし、新型コロナウイルスの影響で乳製品の業務用需要は低迷したままで、バター、脱脂粉乳在庫は拡大しており、酪農現場への影響が懸念されます。

部長会としましては、例年、熊本の酪農経営の充実を目指して様々な活動を開催しておりますが、昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で制限された中の活動となりました。本格的な流行前であった1月には、視察研修として大消費地である東京での酪農関連施設の視察とともに、酪農団体が集結した酪農会館を訪問し、全国的な酪農・乳業情勢についての研修会を実施しました。

今後も本協議会では、酪農業の恒久的発展と酪農経営の安定を図るため、酪農生産者の一層の団結を目指します。今年は、新型コロナウイルス感染症の感染予防を徹底し、その状況を注視しながらとなりますが、県内地域の関係団体との積極的な交流を図るとともに、らくのうマザーズ及び各協力組織と連携し、酪農・乳業に係る情報収集や課題解決に向け邁進してまいりますので、引き続き皆様のご協力をお願いいたします。

最後になりましたが、本年が皆様方にとりまして偉多き良き年となりますよう祈念申し上げ、年頭のご挨拶と致します。



熊本県酪農部長連絡協議会
会長
梁池 朋幸

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。皆様におかれましては、よき新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、平素より当協議会の活動に対しましてご支援ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は、年明けから新型コロナウイルス感染症の拡大という難局に直面し、非常に難しい取り組みを迫られた一年となりました。経済活動が大きく制限され、私たちが経験したことのない影響が随所にみられています。また、7月の豪雨では県南地域を中心に甚大な被害が発生し、今なお完全な復旧に至らない地域もございます。改めて被害に遭われた皆様に謹んでお見舞いを申し上げます。

酪農業を取り巻く情勢は、TPP11や日米貿易協定が発効し、自由化の加速が危惧される一方、米中貿易摩擦の長期化など海外情勢は混沌としており、先行き



熊本県酪農ヘルパー利用組合

組合長

井 上 栄 一

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

酪農家の皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は、本組合の事業に対しまして、格別なご支援とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症の発生によりパンデミックの状況下となり世界経済が著しく衰退することとなりました。このような中、我が国経済は、内・外需ともに甚大な影響を受け、政府は、感染対策とともに緊急事態宣言解除後の自肃緩和や特別給付金の支給、経済対策キャンペーンなど景気回復に向けた対策が図られましたが、外食産業や観光地を中心に企業業績は悪化し失業者の増加が懸念され油断を辞さない状況です。

一方、酪農情勢は、コロナの影響により学乳向けが休止となり、加工向け増大が懸念されましたが、国の早急な対応による乳価保障や新しい生活様式による三密の回避による外出自粛によりスーパー等での需要が

拡大し回避することができました。また、本年におきましても7月の豪雨により球磨川の氾濫や9月の台風の発生により一部県内の酪農家でも被害が発生するなど戸々の酪農家による災害対策を考えさせられる要因にもなりました。

このような中、当組合のヘルパー事業につきましては、組合員の皆様方のご理解、ご支援により、地域に密着した事業として質の高い酪農ヘルパーの育成・指導に自助し、酪農家の周年拘束労働を改善し、定休日を設け魅力ある酪農経営の確立を目指すため、定期的な休日の確保、傷病時発生時に速やかに対応することで、酪農経営の一助になることを認識し役職員一同努力しているところです。

現在、本組合の酪農ヘルパー人員につきましては33名で運営しております。

酪農家戸数は年々減少していますが、当組合に対する申込需要は年々増加傾向にあります。酪農ヘルパー要員が不足していることや要請時期が集中した際には出勤をお断りせざるを得ないことも多くあり、大変心苦しく思う次第です。

今後も酪農ヘルパー事業の充実を図るため酪農ヘルパー職員の増員に向けた募集と併せて技術指導等の研修を重ね、皆様の負託に応えていけるよう努めて参りますので、ご理解の程よろしくお願いします。

最後に、本年が皆様にとりまして健康第一とした稔り多き年でありますように、ご祈念申し上げまして、新年のご挨拶とさせて頂きます。

至っています。

但、酪農現場においては、生産基盤強化や加速化事業の活用で、大規模化・省力化、乳用牛増頭などで生乳生産が好調に推移する一方、酪農家戸数は450戸を割込むこととなりました。

コロナ禍の今こそ、将来の需給調整施策や需要に即した生産奨励の見直し、意欲ある酪農後継者の育成支援や底上げ対策等への必要な思いを感じながら、時間ばかりが過ぎ去っていきました。

こうしたなか、当協議会は、本年冒頭の全体会議において、本県酪農が進める組織整備進捗状況の課題抽出を行い、会員皆様の取組みについても検討をいただきました。

ご案内のとおり、その後は、予定した全体会議、全体講習会、全体研修会の実行が及ばぬ環境下に、酪農家の感染症予防を第一義に、活動静観の確認を行なうばかりの事態となりました。

協議会会員におかれては代表者の交替もあり、当協議会の活動も新たなステージを迎えると感じいるところです。

必ずや本年は、感染症収束のもと、コロナ禍で痛感した生産者支援対策への活動を再開できるものと念じてやみません。

同じ酪農家同士が一堂に会し、意見の交換や懇親も楽しみに、会員皆様の期待に応える活動を進めて参る所存です。

わたしどもの活動が酪農経営の一助となりますよう、また、本年が皆様にとってより良き年となりますよう祈念申し上げ、私の新年のご挨拶と致します。



熊本県酪農専門農協協議会

会 長

山 田 政 晴

初春に謹んでお慶びを申し上げます。会員皆様におかれましては、心新たに新年の寿ぎをお迎えのことと拝察致します。

昨年は、新型コロナウイルスの世界的な感染爆発で、公私とも心身ともに、未曾有の危機を感じた一年であり、政治経済もが多大な混乱のなかで震撼し、新たな経済活動や生活様式が模索され続けた一年でした。

酪農乳業界においては、4月の緊急事態宣言を受け、休校による学校給食停止、また外食・宿泊産業の沈込みにより、大幅な需要減退がもたらされました。業界をあげた懸命な努力によって、恐れた生乳廃棄は回避されたものの、在宅勤務や夏休み短縮等での旺盛な巣ごもり需要から、牛乳不足が一転して心配される等、不安定な需給体制や北海道に依存した生乳確保など、構造的課題も露わとなりました。

本県にあっては外食主体の業務用需要に大幅な出荷減少がみられたものの、スーパー、量販、生協等の売上伸長もあり、幸いにも牛乳類の大幅拡大をみるに



熊本県乳用牛群検定組合
組合長
内ヶ島 賢 勇

新年明けましておめでとうございます。
組合員の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、日頃より、組合員の皆様及び関係各位におかれましては検定組合の事業に対しまして、格段の御支援御指導並びに御協力を頂いておりまること、心より深く感謝申し上げます。

昨年7月の県南部豪雨により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げ、皆様の一日も早い復興を願っております。

さて昨年を振り返ってみると、新型コロナウィルス感染症拡大の甚大な影響により、今年度のGDP成長率はリーマン・ショック時を超えて落ち込むなど、極めて厳しい状況となりました。

また、酪農を取り巻く環境としても経営者の高齢化や後継者不足等により酪農家戸数も依然として減少し

続けております。さらに、TPP11、日欧EPA協定に続き、日米TAG協定も最終合意に至り、牛乳・乳製品への影響はさらに強くなることが予想され、不安は尽きません。

そのような中、検定組合では、国・県・(一社)家畜改良事業団、熊本県酪連、各会員組合のご協力を得ながら毎月の立会検定を中心に、乳牛の改良や酪農経営の改善等に取り組んでおります。県内でも約7割の方が牛群検定に加入されており、検定農家と非検定農家の乳量データでは1頭当たり年間約2,000kgの差があることから、牛群検定の優位性は顕著に見られます。是非、非検定農家の方は、検定料金が6ヶ月間無料になるお試し検定を活用した検定加入をご検討ください。なお、通常検定は夕・朝の2回立会が必要ですが、毎月夕・朝交互に1回のみの立会でよいAT検定もありますし、今年度もATタイマー設置費用に対する30,000円助成を実施しております。乳量だけを追いかけるのではなく、健康的に無駄がない飼養管理を目指して牛群検定を活用していただければと思います。

最後になりますが、牛群検定を通じてそこで得られる各種データが酪農家のみなさんの経営改善、生活の安定につながるよう今後とも関係団体の御指導を受け又連携しながら事業を進めてまいります。

年頭にあたり、酪農家、検定組合員並びに関係者の皆様にとりまして今年が幸多い年となりますように祈念し、新年の挨拶といたします。

飲モ～！食べよう！
ミルクでレシピ



材料（4人分）

らくのう牛乳	200ml
バター	50g
生クリーム	60ml
チーズ	54g
すしあげ	8枚
人参	1／3本
ほうれん草(葉)	2枚
もち	2個
薄力粉	30g
コーン	40g
かんぴょう	適量
1個につき 6cm程度	
コンソメスープの素	1個
塩コショウ	適量
油	適量

第10回牛乳・乳製品を使った料理コンクール
(熊本県酪農女性部協議会主催) 優秀賞

料理名

もちとろきんちゃく

日本で食べられる、あげ、おもちと牛乳・乳製品のコラボ！！サクッとしたあげのきんちゃくの中に、おもちとチーズが入ったグラタン風味の具を入れました。外はサクッ！中はとろとろもちもち！噛むたびにおいしさが増す！和と洋がいっしょになった一品です。

(平成26年度 優秀賞)



使用する商品 らくのう牛乳

作り方

- ① 人参は小さい角切りに切り、ホウレン草は一口大に切る。
- ② おもちを水でぬらして一口大に切る。
- ③ かんぴょうを水につけておく。
- ④ あげに切り込みをいれて、きんちゃくをつくる。
- ⑤ ホワイトソースを作る
バターと薄力粉を火にかける。牛乳を2回に分けて入れ混ぜる。
生クリームとコンソメを入れる。
- ⑥ フライパンに油を入れて、人参、ホウレン草、もち、コーンを塩コショウでかるく炒める。
- ⑦ ホワイトソースに⑥を入れて混ぜる。
- ⑧ スライスチーズを小さく切って入れて混ぜる。
- ⑨ きんちゃくの中に⑧を入れて、かんぴょうで口を結ぶ。
- ⑩ オーブンで3～5分焼く。

新設組合設立合意に関する確認書調印式が開催される A段階組織整備推進協議会 新設組合設立合意確認書調印式

本会がすすめる熊本県酪農組織整備に伴う県下全域酪農家の受け皿づくりを担う、A段階組織整備協議において、新設組合の設立事項について合意がなされました。

このことを受け、去る12月14日、本会応接室を会場に、県酪連隈部会長立会のもと、A段階参加組合である荒尾酪農協吉村組合長、火の国酪農協倉本組合長、熊本市酪農協相馬組合長により、設立合意確認書の調印式が執り行われました。

これは、三酪農協組合員の加入同意とりまとめにより、定款変更方式で対等関係を保った、組織整備となります。

令和3年4月1日を設立目標とされ、熊本市東区を拠点に、県下全域を地区とする広域酪農専門農協が生まれます。

今後は、設立準備に必要な行政認可を求める臨時総会での定款変更など、受入母体となる火の国酪農協の準備が慌ただしくなります。また、設立にあたり、既存組合の解散準備も急がれることとなり、本会通常業務の移管や解散手続き等、所管担当業務にも波及することとなります。

450戸を切る酪農現場において生産基盤の維持・強化はもとより、組織コスト低減での酪農家支援がさらに進められ、本県酪農資源の最大限活用となるよう今後の組織整備協議の進展が注視されるところです。

